

第 2 6 期中間期及び通期の業績の概況



株式会社 秋川牧園

当中間期は猛暑による消費減退、台風等による被害、また、鳥インフルエンザによる全国的な需要の減退の後遺症が8月まで残る中で、売上高は16億16百万円(前年同期比6.6%減)となりましたが、採算性の低い商品鶏卵を計画的に縮小したものを除けば、実質的な売上高は微減に留まったものとなりました。

当社の収益構造は、食品産業の特性により、季節要因が大きく収益の大部分を年度後半に計上する特性があります。今期前半は先述のよう台風災害やその他、業界の特殊要因の影響を受け、経常損失8百万円となりました。なお、中間純利益金につきましては164百万円となりましたが、この純利益の大幅な増益は、連結子会社として進めていた宅配事業が軌道にのり、それに伴いその宅配会社、株式会社スマイル生活を合併したことによる繰延税金資産の認識によるものが主体であります。

9月以降は売上の順調な回復が続いており、通期におきましては予定の利益が達成できるものと期待しているところであります。

事業の状況と今後の課題

今から32年前、当社が先駆けて提唱し、実践した食の安全、安心は今や時代の大きな核となってきました。当社のこの新しい食や農業のあり方について多くの消費者の信頼を頂く中で、それをビジネスとして育て、併せて、平成9年に農業生産として、初めての株式上場を果たすことができました。

今や、農業や食品産業は、医療食や食生活の提案事業を含め、さらに、健康や食に関わる産業のすべてが、この新しい健康・安全という基軸で動き出しています。このような中で、当社のもつ信頼性や優れた技術開発性、創造性がさらに強い形で発揮されつつあります。

さらに、これらの分野における今後の当社の優位性は次の形で要約されます。

1. 信頼性が明快である健康な食べ物の専門生産であること。
2. 食の一貫生産・トータライズマネージメントが機能するオンリーワンとも言える食の安全・安心の専門組織であること。
3. アクション21によるコスト改善が全社的に機能すること。
4. 生協との産直の高度化の担い手として努力できること。
5. 技術開発力が優れていること。
6. 食ビジネスとしての新しい創造力を有すること。
7. 食の安全・安心と健康な食生活に対する総合的な提案力を有すること。
・ ・ フードデザイン

フードデザイン・21世紀型の食のあり方

医と食と生活の融合・ ・ よい人生によい食べ物

お陰さまで、先行投資を続けておりました新規事業・健康な食の宅配便「スマイル生活」は、その黒字化が事実上達成するところに至りました。このように比較的短期間に事業化が見えた背景には、やはり、つくる(生産)から食べるところまで、一貫したトータライズできる強みが発揮されたことが挙げられます。そして、さらに、安全・安心に対する信頼性の高さが評価されているものと考えています。これからも、地道な努力を重ね、トータライズマネージメントのメリットを流通業界にも提案して参りたいと考

えています。

この宅配事業の見通しが得られたことに基き、本年9月1日をもって、株式会社スマイル生活と当社が合併いたしました。

なお、一時心配された鳥インフルエンザ以後の鶏肉・卵の大きな消費減退も、9月以降については前年度を上回る回復が続いており、利益面の回復傾向が見えつつあります。

併せて、惣菜工房・冷凍食品の商品開発も軌道に乗りつつあり、今後の業績の伸張に向け、役職員一同、さらに力を傾注する所存であります。

業績の予想

通期の事業収益も見通しといたしましては、単体で売上高 35 億 86 百万円、経常利益 1 億 15 百万円、当期純利益 2 億 40 百万円を見込んでおります。

なお、配当金（1 株 20 円）は引き続き継続する予定であります。

以 上

中 間 貸 借 対 照 表

(平成 16年 9月 30日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資 産 の 部)		(負 債 の 部)	
【流動資産】	【1,867,147】	【流動負債】	【2,078,696】
現金及び預金	635,300	買掛金	421,668
受取手形	2,320	短期借入金	1,480,000
売掛金	416,030	未払法人税等	4,785
たな卸資産	331,148	賞与引当金	24,687
未収入金	302,774	その他	147,555
繰延税金資産	90,538	【固定負債】	【261,696】
その他	91,247	長期借入金	4,800
貸倒引当金	2,212	社債	100,000
		退職給付引当金	110,094
【固定資産】	【2,225,258】	その他	46,801
(有形固定資産)	(1,337,585)	負債合計	2,340,393
建物	558,490	(資本の部)	
土地	509,648	【資本金】	【714,150】
その他	269,446	【資本剰余金】	【681,030】
(無形固定資産)	(12,410)	資本準備金	681,030
その他	12,410	【利益剰余金】	【348,293】
(投資その他の資産)	(875,261)	利益準備金	100,000
長期貸付金	608,254	任意積立金	491,000
繰延税金資産	139,480	中間未処理損失	242,706
その他	128,300	【株式等評価差額金】	【10,897】
貸倒引当金	773	その他有価証券評価差額金	10,897
【繰延資産】	【1,245】	【自己株式】	【 1,113】
社債発行費	1,245	資本合計	1,753,257
資産合計	4,093,651	負債・資本合計	4,093,651

(注) 記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しています。

有形固定資産の減価償却累計額 893,928千円

商法施行規則第124条第3号に規定する配当制限額

資産の時価評価により増加した純資産額 10,897千円

中 間 損 益 計 算 書

〔 平成 16年 4月 1日から
平成 17年 9月 30日まで 〕

(単位：千円)

科 目	金 額	
(経 常 損 益 の 部)		
【 営 業 損 益 】		
営 業 収 益		
売 上 高		1,616,450
営 業 費 用		
売 上 原 価	1,332,047	
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	295,725	1,627,772
営 業 損 失		11,321
【 営 業 外 損 益 】		
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	8,093	
受 取 配 当 金	166	
賃 貸 設 備 収 入	2,175	
そ の 他	5,877	16,313
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	10,711	
賃 貸 設 備 費 用	2,105	
そ の 他	666	13,483
経 常 損 失		8,492
(特 別 損 益 の 部)		
【 特 別 利 益 】		
【 特 別 損 失 】		
固 定 資 産 除 却 損	3,640	
そ の 他	1,075	4,715
税 引 前 中 間 純 損 失		13,207
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税		1,716
法 人 税 等 調 整 額		179,625
中 間 純 利 益		164,700
前 期 繰 越 利 益		31,393
抱 き 合 わ せ 株 式 償 却 損		438,801
中 間 未 処 理 損 失		242,706

(注) 記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しています。

1株当たり中間純利益

39円41銭